

非核の政府を求める石川の会 会報

# 非核・いしかわ

事務局 〒920-0848  
 金沢市京町 28-8  
 石川民医連労働組合気付  
 Tel 076-251-0014  
 郵便振替口座  
 00760-0-15689  
 会報込年会費 3000 円

## 非核 5 項目

- ① 全人類共通の緊急課題として核戦争防止、核兵器廃絶の実現を求める。
- ② 国是とされる非核三原則（つくらず、もたず、もちこませず）を厳守する。
- ③ 日本の核戦場化へのすべての措置を阻止する。
- ④ 国家補償による被爆者援護法を制定する。
- ⑤ 原水爆禁止世界大会のこれまでの合意にもとづいて国際連帯を強化する。

被爆七〇年・カギを握る日本の運動

## 「核兵器のない世界」への展望

原水爆禁止日本協議会常任理事

川田忠明



市民社会の運動の重要性を強調された川田忠明さん

今日は目前にせまった二〇一五年 NPT再検討会議にむけた「核兵器全面禁止アピール」署名を押し上げ、一緒に頑張っていくためにお話しさせていたがたい。

## 総選挙後の新しい情勢と

### 平和運動の展望

第三次安倍政権発足後の記者会見（二〇一四年二月二四日）で安倍首相は「憲法を変える」という大変危険な発言を行った。

「憲法改正は自民党の結党以来の大

きな目標。歴史的なチャレンジだと言っている」

衆参両院での三分の二議席を確保し、国民投票での過半数支持獲得への努力を宣言した。これまでは集团的自衛権の行使容認の閣議決定（解釈改憲）だったが、今度は憲法の条文を改定する（明文改憲）と表明した。

安倍政権は戦後最悪の政権ではあるが、弱点があることもみておきたい。  
**弱点①は、実態は国民少数派である。**

総選挙では小選挙区制のマジックで自民党は圧勝したといわれているが、共同通信の世論調査では、「憲法改正に反対」五〇・六%、「集团的自衛権を支持しない」五五・一%、「沖縄・辺野古新基地の停止・白紙化」六四・三%、「消費税一〇%アップに反対」五七・五%であり、どれをみてもこれから安倍政権がやろうとしていることに半数以上の国民が反対している。安倍首相も「賛否は大きく分かれ、激しい抵抗もあります」と記者会見で述

べているように、大きな抵抗運動をひらげている。

総選挙では九条改憲への賛成議員が減ったため、投票日翌日に安倍首相は、「憲法改正をめぐることは、最も重要なのは過半数の国民の支持だ。国民的な理解と支持をひろげるために努力する」と発言した。これは九条改憲に国民の半数以上が反対しているからであり、集团的自衛権反対の国民的運動の反映である。

**弱点②は、解決策がない。** 予算要望のため上京した翁長雄志沖縄県知事との面会を閣僚が拒否していること、会わないこと自体は問題だが、会っても話さない。沖縄県民の意志が明確だからアメモも通じないし、策もない。安倍首相は「この道しかない」と言いながらその先が見えていない。解決策がないことが大きな弱点である。  
**弱点③は、極右勢力の集りである。** 一九九七年に憲法改正、天皇の元首化、教育基本法改正などを目指す右翼的

## 花鳥風月

ル・コルビュジエの「住宅は住むための機械である」

ある」など機能主義の建築思潮を語る言葉はよく知られる。住宅は容器であり人間活動がその内容である▼経済同友会は、国家財政への提言で消費税を予定通り一〇%に引き上げるだけでなく一七%まで段階的に追加で増税すべきだと求めた。現代社会の格差と貧困の上に消費税増税が何をもたらすかは火を見るより明らかだろう▼そこで国家・国民から国という領域を取り除き「家」と「民」について考える。「家」は人間活動の容器・形式であり「民」は生活者としての人間である。私たちが社会について考える場合、主体である人間のために国や制度の在り方が考察の対象となる。経済学の浜矩子氏も「国家は国民のために存在し国家装置＝行財政は国民に尽くす義務がある」と述べている▼『非核・いしかわ』一七二号の本欄で、「『家族との時間』ばかりか『自分との時間』までも奪われる社会はみんなの意志から離れてゆく」と述べたが、いよいよ「よりよき明日」を求めるべき時代となってきた(二)

な勢力が総結集して改憲ナショナルセンター「日本会議連」がつくられたが、安倍内閣閣僚一九人のうち一五人が「日本会議連」メンバーである。

一月二五日、NHK「日曜討論」で司会者から「村山談話、小泉談話の」痛切な反省と心からのお詫び」をふまえるかと問われて、安倍首相は「全体として継承していく。(中略)これまでのスタイルを下敷きとしない。これまでの文言を使うかどうかではなく、七〇年にあたっての考えを示していく」と答えた。これではアジア、欧州、アメリカから袋だたきになる。戦後七〇年にあたり発表する「安倍談話」が命取りになりかねない。

### 安保法制をめぐるたたかい

当面の平和運動の大きな課題は、集団的自衛権の閣議決定にもとづき、自衛隊が海外で米軍と一緒に戦闘できる法整備をめぐるたたかいである。これまで禁止されていた海外で武器使用や戦闘地域での活動ができるよう安保法制の整備が進められようとしている。

一五本から二〇本の安保法制が四月の一斉地方選挙後に国会に法律改正案として提出される。このため今年の五月三日の憲法集会は「憲法共同センター」と「戦争をさせない一〇〇〇

人の会」などの共催で開催され、六月中旬には安倍政権打倒の大集会が計画されている。

### 安倍暴走と核兵器廃絶の運動

戦後・被爆七〇年は安倍政権のアクセスである。国内外で被爆国日本の役割が鋭く問われる。日本が「核の傘」に入り続けるかどうかが北東アジアの平和にとって非常に大きな問題である。核兵器廃絶をめぐるのは「戦争をする国づくり」との重要な対決点となる。

もうひとつは、核兵器をめぐる運動の共同は日本と世界を変える新しい共同をつくる可能性がある。核兵器廃絶を求める一点での共同は、保守の方々も含めて幅広い共同をひろげる可能性はある。地域、職場、学園から核廃絶の新しい共同を進展させれば、安倍政権を包囲する力になる。

### 核兵器廃絶にどう迫るか

二〇一五年NPTにむけた焦点は、核兵器禁止条約である。昨年の原水爆禁止世界大会では「二〇一〇年NPT再検討会議は」核保有五大国を含む全会一致で『核兵器のない世界』を実現することに合意し、そのために『必要な枠組みを創設する特別な努力をおこなう』ことを確認した。この具体化、実践がもとめられている」と宣言

した。この二〇一〇年NPTの全会一致の合意を受けて、私たちは核兵器禁止条約の交渉開始を求める「核兵器全面禁止のアピール」署名にとりくんでいることに確信を持つ。

### 「核抑止力」論が最大の障害

二〇一五年NPTに向けた最後の第三回準備委員会では、核保有国は「核抑止力」に固執し、二〇一〇年NPT合意から半歩も前に進ませない姿勢のため、議長まとめも勧告も出せなかった。二〇一〇年の時は前年にオバマ米国大統領のプラハ演説「核兵器のない平和と安全を達成する」があり、同年に米ロ戦略兵器削減合意が行われ、核軍縮・核廃絶をもとめる雰囲気があった。ところが今回はウクライナ東部情勢やパレスチナ問題、「イスラム国」などきな臭い問題が発生しており、予断を許さない状況である。従って二〇一五年NPTの成否は国際世論の発展如何にかかっている。

(次号につづく)

「次号は、○「人道的影響」の追求と日本政府の態度、○世論の役割・署名の力、○署名がなぜ大切かなどを掲載します」◎本稿は二月一日、富山県教育会館で開かれた二〇一五年北陸原水協学校の講演要録です。(文責 編集部)



金沢駅でアピール署名

### 二〇一五年NPT要請行動に私も参加します

中内晃子  
二〇一五年NPT再検討会議の年となりました。五年に一度「核」をめぐる世界がどう動いていくか、改めて話し合う大きなチャンスの時です。

核爆発による悲惨さや、地球規模の被害から、核兵器問題を安全保障の問題ではなく、この地球に暮らす一人ひとりに関わる人道上の問題としてとらえる動きも更に広がってきています。

昨年夏、初めて参加した広島・原水爆禁止世界大会で、国連上級代表アングラケインさんが「国連にもみなさんの仲間がいます。みなさんの草の根の運動に励まされます」という言葉をわたしたちに伝えてくれました。その言葉も力に、たくさんの人たちが頑張つて集めてきた署名用紙が、三月に船に乗って旅立ちます。一人ひとりの平和への願いがたくさん詰まった署名です。四月には、新婦人石川県本部の代

表として、私もニューヨークへ向かいます。

少し暖かくなったら、私たちの身近なおもいを伝えるチャンスの時がやってくる。そのすぐ後、次は世界へおもいを伝えましょう！

ぜひ、もうひとき世界を動かす力になる、この「核兵器全面禁止のアピール署名」を広げていきましょう！（編集部から）中内晃子さんは NPT 要請行動に参加を決意した昨年四月から毎日署名を集め、現在八〇〇筆を超えています。

## 平和・民主団体合同「新春のつどい」

助 昭三

### 一、選挙結果と戦後七〇年

沖縄での総選挙勝利は、今後のたたかひのあり方を示唆していて教訓的である。同時に、秘密保護法施行と集団的自衛権行使への対応は新たなたたかいである。

今年には戦後七〇年。戦争放棄の日本国憲法は世界政治に大きく貢献した。しかし米独占資本が武力で世界秩序を形成しようとし、安倍内閣が日米同盟の完全復活を礼賛し、独占企業本位の国づくりをするなかで、日本が再軍備へと向かう可能性は大きくなった。

戦後日本の平和の基盤が大きく揺さぶられている。

### 二、「積極的平和主義」の前身

「イスラム国」人質事件の直前、安倍首相は中東を訪問し総額二九〇〇億円をばら撒いた。この訪問で注目されるのはゼネコン・銀行・商社など四六社の首脳を引き連れて日本製品を日本政府が買い、それを各国に渡すという資本の番頭采配だったことである。結局、安倍外交は「国際貢献」と言いつつも日本独占企業の海外進出の先手となっている。これではやがて企業防衛のための「自衛隊派遣」となりかねない。

### 三、歴史を振り返って

張作霖を殺害し、柳条湖事件をデッチ上げ、日本は「満州国」を建国した。私の人生の最初の記憶がこの時の「提灯行列」である。

一方で昭和恐慌からの脱却が庶民の願望となり、「満蒙は生命線」と宣伝され、農家の二男三男は海を渡り、教科書も「ヘイタイ ススメ」に変わり、「満州国」を守り石油ルート確保するためとして戦争に入ってしまった。真珠湾攻撃のラジオ報道で初めて国民は戦争を実感した。大本営警保局は真珠湾攻撃の翌日、『記事指し止め事項』として、

一、止むを得ず立ち上がったことを強調すること

一、戦況は好転し、絶対に有利にあることを鼓吹すること

一、国民の中に英米に対する敵愾心を執拗に植えつけること

を指示し、報道に介入していった。戦況の悪化につれて学徒出陣、学童疎開、防火・竹やり訓練など、ほぼナシセンスなことを国民に強い、鶴彬の「手と足をもいだ丸太にしてかえし」「胎内の動き知るころ骨がつき」のような状況を生み、日本中が焼け野原となった。

即ち国民はいつの間にか戦争に参加していたのだ。「資源がない」「国が狭い」と言つて国民の不満を外に向け、「勝った」と報道してジャーナリズムを徹底的に利用し、「お国のため」と敵愾心と愛国心を煽り、ムラ社会を活用して「貴様、日本人か！」と抵抗できなくする。戦争はこういう形です。しずつ入っていく。

### 四、最近の危険な歩み

「新ガイドライン」「周辺事態法」「テロ対策特別措置法」「国民保護法」「防衛庁が『省』」「ガイドライン改定」「秘密保護法」「集団的自衛権行使容認」などの近年の動きをみると、まるで「いつか来た道」。憲法九条を

変えようとする勢力が声高で、一五年戦争が美化され、マスコミが権力に支配され、「悪の中核」論に疑問を持たず、民主教育が改悪されていることを勘案すると、今は戦争前夜かも。

### 五、いま、人々に訴えたいこと

#### 沈黙は不道徳

未だに関係国と「戦争終結平和条約」を結んでいない現状ではあるが、懸念あるなかで日中韓共通の歴史認識を持つべく努めるのは重要である。

前の「戦争」は時間をかけてやってきて、国民が気づいたら既に始まっていた。そこから反対するには大変な勇気がいるし、遅すぎる。「いまからでもおそくはない…」という峠三吉の言葉もある。

私たちには過去に起きたことを記憶に留める責任があり、次の世代に伝える義務がある。昨年総選挙と沖縄の人々の決意をいま全国民が学び、確信を持って「声」を出すべきではないか！「沈黙は不道徳」(Silence is immoral) というノーベル平和賞受賞団体の言葉を紹介して結びとしたい。(文責 編集部)

◎本稿は一月二二日、県教育会館で開かれた「新春のつどい」における助昭三さんの講演要旨です。



◎二月一日、金沢市内で「建国記念の日」に反対する市民集会有りまして。三人の講演要旨を紹介します。

## 沖縄から学んだこと

大森定嗣



沖縄への熱い  
思いを語る  
大森定嗣さん

### 一、ベトナム爆撃の基地沖縄へ

私の関心の中へ米軍基地の島・沖縄が入ってきたのは、五九年、六〇年の安保闘争の時からです。しかし、具体的な接触は、一九六七年一月の沖縄教職員会の教師の来県からです。

当時の県教組文化部長の私は、「縄を正しく教える運動」推進の立場にあり、「正しく教えるためには、沖縄の米軍基地や県民生活の実態を知ることが必要だ」という考えを強く持つようになっており、同時に沖縄全土を包む祖国復帰運動から直接学ぶため訪沖の大会決定を目指しました。その結果、一九六九年六月から七月にかけての一〇日間、BS2のベトナム空爆中の沖縄へ、県内の教師三〇名が初めて海を渡ることになりました。

日本の米軍基地の七五%が集中す

る現地は、「基地の中に沖縄がある」状態でしたが、そんな中で私たち三〇名は、不眠不休に近い二度と経験できない充実した時間を過ごしました。しかし、送別会の折りの沖縄教職員会の喜屋武会長の別れの挨拶は厳しかったですね。「私共は、今ここで皆さんの行動を評価しません。県へ帰られてどのように実践されるか、それを知ったあとで評価させていただきます」と。沖縄での祖国復帰運動は、前年に初の知事公選を勝ち取り、正に第一期オール沖縄の時期でしたが、その頃できた琉歌（八八八六調）の代表的なもの一つ紹介します。

「むしかアメリカぬち聞（カ）んどんありば沖縄（ウチナ）まんがたみ大和（ヤマト）渡ら」。大和（ヤマト）には「祖国」への思いが溢れています。

### 二、二年間で激変した本土への思い

ところが、「もしアメリカが聞いてくれなかったら、沖縄を担いで本土へ渡ろう」との県民の心が、一九七一年二月、私が二度目に本島と石垣島を訪ねた時どうだったでしょうか。

この時は、祖国復帰協議会と総評共催の「新しい沖縄をつくる会」三日間を中心とする一週間の訪問でしたが、沖縄県民の本土への熱い思いは、引き

潮のように後退していません。

理由は二つです。日米両政府間の施政権の返還交渉が進む中で、「核つき返還」が、表向きの「核抜き」にかかわらず、公然たる事実になりつつあったことが一つ。そしてもう一つは、「復帰の目標だった日本国憲法の空洞化に対する県民の怒り」だったからです。端的にいえば、県民の中では急速に「日本は、復帰を願うに値する祖国なのか」という声が高まりつつあったのです。私が参加した教育関係の分科会では、そのことが「本土の教育の荒廃をかぶることなしに、沖縄の教育闘争はありえない」という発言さえ出ていました。



2・11 集会では3人の報告と討論が行われた

不幸中の幸いというか、悄然と考え込む私の背を叩き、酒を酌み交わしてくれたのは、初訪問の時に親交を深めた教師諸兄でした。しかし、その二回目の訪沖を機に、予想とは裏腹に私と沖縄とのへだたりは大きくなるばかり。復帰後も気持ちは変わりませんでした。

### 三、沖縄との連帯を復活した九〇年代

一九九三年一月の夫婦二人の那覇への旅は、二十二年ぶり三度目の訪沖でした。

前年に出版した創作集『歴史を刻む音』に入れた「沖縄へのメッセージ」が一つのふんぎりだったのですが、二人の友人と再会できた冬の旅は成功でした。

それは、友情の確認という意味だけでなく、基地撤去に向けての県民の意志が、「種火（ウチリビ）」となって燃え続けているのを知ったからです。

そして、その時受けた私の印象は、一九九六年一月の三・一五沖縄連帯集会上に、団長として参加した時も、さらに二〇〇一年暮れに名護市で開かれた日本平和大会に参加した時も続き、それがオール沖縄の再現となるわけです。

#### 四、新しいオール沖縄

今年の沖縄からの賀状に次なる琉歌がありました。

「翁長（オナガ）押し立ててひやみかち起きてわした島人の気概（イジリ）見事」。「ひやみかち起きて」は、「えいと声を出して立ち上がった」の意味。

戦後七〇年、まだ七四%も米軍基地のある沖縄。さる一二月県民は赤々と種火を燃え上がらせました。自己決定権を認識した新しいオール沖縄の始まりです。内灘闘争と六〇年安保闘争の実績のある、石川県の我々が問われています。



教育の役割  
につき語る  
東孝二さん

東孝二

#### 民間教育運動から学んだこと

私は師範学校予科一年（中三）で敗戦を迎えました。その時「お国のために」特攻隊になって死ぬという目あてがなくなって困っている少年でした。右翼少年でも愛国少年でもなく、ただ考えない世間の雰囲気のまま漂っていただけの少年でした。  
一六歳過ぎて今度は無闇に本を読

むだけの観念左翼になって批判ばかりしていました。教員になる気は全くなかったのに一九五〇年に無着成恭の『山びこ学校』を読んで、よしこれだと思つて「お国のために」から「子どものために」に変わった。それでもかく一九五一年に教員になった。

東北の教師の実践記録を読んで感動した。寝小便をした子の作文を文集にのせて、父母からドナラレテ、その日からその子と約束した。手にひもをつけて二階からおろさせ、毎晩子どもを起こしに行くのだ。とても真似できないけど「子どものために」というのは大変なことだと知った。

私が民間教育運動から学んだことは私にもできることはすべてやってみることだった。研究者が提示した原則、すぐれた実践者の記録を読んで、これならやれそうだと思つたら、すべて試みた。それは教師の個性と学級集団の違いで、まねができないことももつとまうまくいくこともあることに気付いた。

発問（質問の方向性）と（質問の質）によつて、子どもの考え方がうんと差があること、子どもの意欲を引き出すこと、子どもの集団が学びあう喜びを生むこと、子どもと共にわかる喜び、大人が聴いてくれた喜び、訳の分から

んことを言つて暴れていても粘り強くゆつくり聴いて、わかつてあげ、信じてあげれば、必ず子どもは信じてくれます。そのことを確信できたら楽しくなります。民間教育運動とか子どもの権利条約を大切にするとするのは喜びを生み出すものなのです。

いじめは無毛です。いじめられる子は守らなければなりません。しかし、いじめをする子を叱ったり罰したりすることは教育ではありません。いじめをしたくなる原因とつきあうことです。その原因が家庭や近所集団にある場合でも学級集団がうけとめることは可能です。イスラム国の暴力は許せないといつて軍事対応しても別のところからウミが出てくるだけです。

教育基本法が国の暴力を規制するものでなくなり、国民（子ども）に押し付けるものになりましたから国から出てくるものは、国の言いなりになる人になりなさいという強制だけです。だからその押し付けの防波堤になることが学校の役割ですし、民間教育運動のその「民間」が大切なのです。官の言いなりにならない国民主権の国民に育てるといふことです。

状況は厳しくなつたとはいへ楽しい教育は可能です。先細つたとは言え、まだまだ民間教育運動が切り開いた

楽しさは生きています。

◎土田光孝さんの講演要旨は次号に紹介します。



#### 被爆七〇年記念事業の「案内

石川県原爆被災者友の会では、被爆七〇年を記念して被爆の実相を広く普及させるため、反核・平和おろづる市民のつどい実行委員会、平和サークル「むぎわらぼうし」との共催で次の記念事業を計画しています。

記

- 日時：七月二六日(土)一三時～一七時
- 会場：石川県文教会館ホール
- ・映画「アオギリにたくして」上映会
- ・中村里美トークコンサート
- ・ロビー交流会
- (プレ企画)
- 映画「アオギリにたくして」試写会
- 日時：四月一日(土)九時半～一二時
- 会場：金沢市松ヶ枝福祉館
- ※同日一三時半から卯辰山玉兎が丘でアオギリ二世の植樹会も計画しています。





## 《編集室より》

若者たちには  
海外の戦争で  
血を流してもらおうよ。

これで ぼくらの国も  
フツウの国になるよ。  
やれ嬉し。

でも やつぱり  
羊が泣かないように  
毛を刈る仕事は  
簡単な訳には行かないね。

ねえ あんたさん。  
ここは一気呵成に進めないかね。

騒ぎ立ててる奴らも  
侮れないからね。

あれは あれで  
奴らも進めて来ているからね。

最後には  
「アンタサン政権打倒」なんて  
シユプレヒコール揃えられたら

怖いね。

そうなると 倒されちゃうかもよ  
ぼくたち。  
でも

そんなことになったら あんたさん。  
歴史の審判は  
どう 下るのさ？

◎沖縄・辺野古沖で海中へ投下した

「トンブロック」は一〇〇四五トンの  
重さがあるそうだ。そのブロックと太  
いチェーンが辺野古のサンゴを押し  
潰している痛々しい映像がテレビニ  
ユースで報道されていた。この映像を  
観る限り、環境を破壊しようが「問答  
無用」「聞く耳持たず」ごり押しの道  
理の無い工事に見えてくる。この撮影  
現場は県が許可した区域外という。

今、ボーリング調査とか仮棧橋とか  
行っている工事現場にあのサンゴの  
仲間が生存していないのだろうか。

仲井真前知事は何を根拠に埋め立  
て工事を許可したのだろうか。

翁長知事は前知事の工事許可に「瑕  
疵がなかったか」第三者の専門委員の  
検証と意見を求めることにしている。  
当然なことと思う。

海上保安庁の「安全保護上の警備」  
と言っていたことは「過剰警備の暴力  
行為」であったし、キャンプ・シユワ  
ブのゲート前での抗議行動でも似た  
ようなことが報道されている。

米軍報道官は辺野古の抗議行動を  
「ばかばかしい」と発言。やんばるの  
森高江のヘリパッド建設阻止の行動  
を現地司令官は「金をもらってやって

いる」その上「共産党と民主主義」の  
ことまで放言している。

新基地建設は沖縄の基地負担を更  
に増大することであり、日本国民の民  
意無視の暴走である。(平)

◎原子力規制委員会は二月二日、関  
西電力高浜原発三、四号機の安全対策  
が「新規制基準に適合している」とし  
た審査書を決定した。高浜原発は事故  
に備えた防災対策が求められる三〇  
㎏圏が福井、京都、滋賀の三府県にま  
たがっており、京都府舞鶴市は重大事  
故の際には即時避難が求められる五  
㎏圏に入っている。

原発再稼働には地元の同意が必要  
だが、関西電力は原発が立地する高浜  
町と福井県にだけ同意を求めるとし  
ており、今後は地元同意の範囲やその  
進め方が大きな焦点になる。

昨年五月の大飯原発三、四号機運転  
差止の福井地裁判決を受けて、福井県  
では全自治体で署名推進委員会をつ  
くり、三〇万筆を目標に取り組んでい  
る県知事あての「もう動かすな！ 福  
井県民署名」が、県内外から二〇万五  
千筆集まった。原発再稼働を断じて容  
認しないという署名運動と県民世論  
が県知事を包囲している。(か)

◎NPT再検討会議が四月二七日か  
ら始まる。世界のNGOがニューヨ

クでキャンペーンを展開することに  
なっている。日本からも大型派遣団が  
五年間積み重ねてきた署名を携えて  
参加する。しかし、準備段階で日本政  
府が核廃絶を願う世界の流れに棹さ  
ず動きをしていることが気になる。

「核兵器が一たび使われればいかな  
る国も国際機関も、十分な対応手段を  
持っていない」とのまとめに対して、  
佐野大使が「悲観的過ぎる。それより  
積極的に備えるよう、議長まとめにも  
反映させる」と発言した。

これらは、被爆者の原爆症認定の願  
いを無視し続ける政権、辺野古移転ノ  
ーを突きつけた県民世論に背を向け  
る政権、米と原発メーカーの意向を受  
けて「地球儀俯瞰外交」を続ける政権  
と同根である。唯一の解決策として  
「アメリカとの軍事協力にノー」「核  
の傘からの離脱を」のスローガンを高  
く掲げよう。とともに報道しない国内  
メディアには、草の根からの情報発信  
をしなくてはならない。「非核の政府」  
を求める運動の由縁である。(I)

## お願い

三月三十一日は年度末になります。  
会費納入の遅れのある方にお願ひ文  
が同封されております。よろしくお  
願ひ申し上げます。 常任世話人会

「被爆者が描いた体験画展」⑤

石川県原爆被災者友の会 中田喜重

長崎にて被爆(当時一四歳)  
 八月九日午後四時頃、爆心地より  
 二・八km(片瀨町)

爆心地附近で被爆し、山越えしてき  
 た人たち。私の前を何百メートルと続  
 いた。家の前の共同水道の水を、皆が  
 むさぼり飲む。どんなに熱い熱射にあ  
 ったのだろう。この人たちのほとんど  
 が、命を落としていった。赤黒い太陽  
 のために、辺りは暗かった。



長崎市三菱造船幸町工場

崩れ落ちたレンガの下敷きになっ  
 て、助けを求める女子学生



1977年7月7日、中田喜重氏撮影

絵手紙コーナー

金沢医療生協絵手紙班

矢敷節



《非核平和・行事予定》

月	日	曜	時	行事名	場所
2	22	日	10:00	「沖繩戦、集団自決の語り部の伝え部津田賢一さん」のお話	金沢市近江町交流プラザ4階
	22	日	13:00	映画「日本と原発」上映会&講演(河合弘之監督)	石川県教育会館ホール
	22	日	14:00	原水爆禁止石川県協議会2015年度総会	石川県学習会館
	27	金	18:30	「青ひげ先生の聴診器」公演 お問合せ石川民医連	金沢市文化ホール
	28	土	14:30	「青ひげ先生の聴診器」公演 同上	同上
	28	土	13:00	2015年 3・1ピキニデー原水協集会和分科会	静岡県焼津市文化ホール
3	1	日	9:30	同上 墓参行進・墓前祭 3・1ピキニデー集会	同上
	8	日	13:30	原発ゼロ・志賀原発廃炉を求める3・8石川県行動	金沢市役所前広場
	14	土	17:00	戦医研北陸支部「戦争と医療に関する日独医の違い」	金沢市近江町交流プラザ4階
	15	日	14:30	「日本軍『慰安婦』問題とは～芝居とお話」(有馬理恵さん)	金沢市文化ホール
	22	日	15:00	憲法市民集会・八法亭みややっこ「憲法嘸」	石川県教育会館ホール
4	11	土	10:00	映画「アオギリにたくして」試写会&アオギリ植樹会	金沢市松ヶ枝福祉館4階
	24日(金)~5月1日(金)			2015年NPT再検討会議・ニューヨーク要請行動	米国・ニューヨーク市
5	1	金		2015年メーデー	
	10	日	10:00	NPO法人はだしのゲンをひろめる会第3回総会	金沢市近江町交流プラザ4階
	23	土	14:00	戦争をさせない石川の会「安保法制学習講演会」	ITプラザ武蔵6階研修室
	31	日	13:30	非核の政府を求める石川の会第27回総会	金沢市近江町交流プラザ4階
6	28	日	14:00	紫金草合唱団15周年記念公演	石川県文教会館ホール
7	26	日	13:30	映画「アオギリにたくして」上映会&講演(中村里美さん)	石川県文教会館ホール

\* 毎週金曜日 18:30 どいね原発アピール行動 金沢駅東口 \* 祝日は休日としています

\* 毎月6日、9日 12:00 核廃絶署名6・9行動 金沢市Mza前